

会議の結果

件名	令和元年度第6回社会教育委員会議定例会
日時	令和2年3月26日（木曜日） 午後2時～3時30分
場所	田辺市民総合センター 4階交流ホール
出席者	<p>○社会教育委員 久保委員、松場委員、近藤委員、井潤委員、小山委員、西川委員、尾崎委員 三宅委員、加藤委員、山崎委員、稲垣委員、九鬼委員 計12名 (欠席) 柳川委員</p> <p>○事務局 佐武教育長、宮崎教育次長、狼谷生涯学習課長、北尾生涯学習推進係長、 尾崎公民館係長、澤本事務員 計6名</p>

1. 教育長あいさつ

2. 議長あいさつ

3. 説明事項・報告事項

- (1) 令和2年度田辺市教育行政基本方針及び各課活動方針について
- (2) コロナウイルスの影響により中止となった事業等について
- (3) 令和2年度田辺市少年少女発明クラブについて
- (4) 令和元年度（第31回）スポーツ賞について
- (5) 第44回市民体育祭について
- (6) 第19回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会結果について
- (7) 令和2年4月～5月の行事予定について
- (8) 第30回南方熊楠賞授賞式について

以上の項目について、事務局から一括して説明を行った。質疑応答における質問・意見等はなかった。

4. 協議

- (1) 材育成講座「まちづくり市民カレッジ+（プラス）」の第3回講座実施結果について、事務局より説明を行った。

【質疑応答・主な意見】

(議長)

今、事務局から、第三回講座アンケート結果の内容をお話いただきました。こちらにつきまして、講師の講座になりますけれども、何か思い当たった点とか、アンケート調査に出ていない、お気づきの点をご発言いただけたらと思うんですけれども、いかがでしょうか。

(A委員)

私は、都合でそれぞれ地区の発表の時には参加できず、講師のお話しの時に参加させていただいたんですが、110点という評価は今まで初めてだったんじゃないかなとか、無料のセミナーとして、質・量ともに満足度の高いものだったとか、すごく良い評価をいただけたなど。このことをそのままにしておくのではなくて、いかに活

かしていくかというのが大事じゃないかなと思っています。一つ面白かったのが、講座を受講しようとしたきっかけの中に、「自治会が不安で、今の地区に住み続けたくないと思っているから」というのがあって、この講座を聞いてどう変わっていったのか、すごく気になるところです。私としては、すごくよかったんじゃないかと思います。

(議長)

やっぱり、それぞれの地域で色々と事情があって、それぞれの想いを形にしていくということにすごく苦労されているんだろうな、というのは想像つくんですけども。防災の方でも、要所要所に明かりを灯していくというようなお話しをいただいたんですが、あれは、時間がたつと消えるということで、ソーラー式にしたらいんじゃないかというようなお話しも色々とあったんですけども、聞かれた方も刺激を受けたんじゃないかなというのはいすごく感じました。

(B委員)

お花は枯れないんですか、どれくらいもつんですか、という質問に対して、会場の方が回答していただいて、ただ講師とのキャッチボールではなくて、会場の一体感が感じられたので、すごくうれしかったです。事例をたくさん聞いていただいて、だんだんと盛り上がった中での質疑応答というところで、良かったかなと思いました。

(C委員)

心に残ったキーワードというところで、ここでは、「小規模多機能自治」となっているんですけども、私の捉え方は、「小規模多機能」です。我々の建築の世界で捉えると、「多能工」という言葉があるんですが、要するに、柔軟に、なんでもできる、なんでもしないといけない。監督だからといって、体を後ろに倒してふんぞり返るのではなく、泥まみれになって、汗まみれになって、色んな仕事をする。そうすると、現場でものを作っていく職人さんの重要さや、その仕事の大事さがわかってくるんですよ。ですから、我々も座学ということも含めて、委員会の中で、フィールドワーク的に、移動図書館や美術館にみんなで行くとか、要はここでいう多機能＝多様性を持った動きが、我々の活動にも必要じゃないかなと、色々な意見を聞いている中で思いました。これからは何でも屋でいかないとだめだなということが、随所で出てきているように感じました。

(議長)

これだけアンケートの結果が出ているので、今回だけのものではなく、これを活かして、次につなげていくことも、私たちが委員会の中で考えていかないといけないということもあると思いますので、また、色々ご意見ありましたら、よろしく願いいたします。

続いて、令和2年度年間計画について、事務局より説明を行った。

(議長)

午前中、11時から企画運営会議を行ったんですけども、その内容をお話しいただきました。市民カレッジ+（プラス）を2年続けてきて、その後、小規模多機能自治ということで、大枠を市長の方からご提示いただいたんですけども、企画運営会議の中でも、市民カレッジ+（プラス）として2年やってきたことと、小規模多機能自治に持っていくという形の中での整合性を考えないといけない中で、今までやってきたことをどうするかであったり、会議の中でも意見を出しながら、事務局から説明いただいた形でまとまっはいるんですけども。

(C委員)

小規模多機能自治というのは、行政ではなく、一つの社会として捉えたらよろしいですか。

(議長)

そうですね、地域社会ですね。特に、私たちが社会教育委員として求められている部分というのは、小規模多機能の中で、人材育成の部分です。各地域で、色々小規模多機能自治について話をできる人を作る機会を作る。

(副議長)

今の話は、「人口構造予測作成講座」のことで、人口構造予測を作成できる人を育成する、という話です。

(議長)

田辺市として、小規模多機能自治という地域の形態を作っていけるようにするというのが目的の一つなんですけれども、社会教育委員と未来創造塾というところの連携を含めて考えるというような構造になっています。その中で私たちができるのは、学びの機会というところで、社会教育委員が人口構造の作成を担うというのは違うのではないかという話の中で、私たちは目的のために、どういう学びの場を作れるかというところを考えていく必要があるんじゃないか。その中には、ビジネス的な視点も必要でしょうし、色々な視点が入ってくると思うんですけども、これを令和2年度の事業として1年間でできるかというところに、どういう風に1年間を集約していけるかということが、企画運営会議の中で求められているのかなと思うんです。

ただ、現実的に、市民カレッジ+（プラス）と未来創造塾とでどんな連携をとれるのかということが、具体的なものまでは出ていません。

(C委員)

例えば、生涯学習課と、たなべ営業室とで、担当者同士で何かリンクさせる。向こうの想いを我々が掴むとしたら、この場に来てもらって話をしてもらおう等しないと、情報は入ってこないんで、僕は必要だなと思います。相互補完していかないと、無理です。縦割りではなくて、横・縦とクロスさせてやっていかないと、ソーシャルデザインという我々のいるポジションというのは、成就できないと思います。

(D委員)

来年どうするかという話だと思うんですけども、そもそものまちづくり市民カレッジ+（プラス）は、平成30年から3年続けてやるという話で、ホップ・ステップ・ジャンプでやりましょう。ホップが、今までとは違う社会教育の取り組みをしましょうということで、自治の人づくりとか、そういうものを追い求める。ステップで、今年、高校生の人に来てくれたり、小規模多機能自治みたいな、別の部局のモデルもやろうかという話になりました。ちょうどこの間の講師の話で、小規模多機能自治が前面に出て、アンケートの中でも、市民の中でもそういう想いが少しずつ芽生えてきた、教育委員会の中でも芽生えてきた、企画部の方でもそういう意向もある、というのを踏まえたうえで、ジャンプをどうするか、というところなんです。

小規模多機能自治を具体的にやるとなると、自治振興課の仕事だということになるので、我々社会教育部局でできるのは、自治を支える人づくりだろうということで、小規模多機能自治を支える人づくりをしよう。それをどうするか、ということで、「人口構造予測」ができる人を公民館単位で増やす。田辺市が人口減る、というのはよくわかっているけれども、自分の地域のこととなると、なかなかわからない。なので、人口構造予測ができる人を増やしたい。ただ、一気ににはできないので、来年は、人口構造予測のやり方を教えられる人をまず作りましょう、というのが、令和2年の事業イメージの一つの方向性として出ました。それをどうやってやるか、という目線に立った時に、小規模多機能自治を支える田辺らしい人づくりをするために、こういうことを学びたい、ということをもとめて、講師にぶつけようと。教えてもらう内容は、社会教育委員会の中で、もっとこんなことを教えてほしいとか、そういうことをアイデア出ししたら、次の講座にのせれるかなど。それが令和2年度事業のキックオフで、そこで教わった人を令和2年度の後半で、どう展開していくか。そこから先はこれから協議しないといけないんですけども、ひとつ案としては、どこかの地域でモデルとしてやれば、というのが、ざっくりとした方向性です。

(C委員)

これね、「人口構造予測」としているから難しいんです。もっと平たくいうと、「人口構成予測」としたらいんです。人口構造というよりも、構成をどうしていくかということで紐解かないと、難しいと思います。

(E委員)

人口構成をどうしていくというのはできないと思います。高齢者ばかりになっても、そこを支える自治体の財政が持たないというのが講師の話だと思っていて、そういう危機感を、リアルに与えてくれる。そこを知ったうえで、次の行動の動機付けにする。我々の立場からすると、実際にやるマインドをどう作っていくか。その知識とか、情報ですよ。そこを、つくるのが、我々の働きどころかなと思います。

(C委員)

良いケーススタディとして、上富田町があるんです。お店が増えて、利便性が高まり、子供が増え、どういうことが起こるかという、田辺から企業が上富田へ出ていきます。また、311号バイパス沿いに沢山の企業が出てきて、つまり、住んで働いて買いやすいというような町の構成が、コンパクトにできているんです。だから人口が増えてきているんだ、と個人的に分析しているんです。なので、そこをケーススタディにして、この地域が疲弊してきている、人口構成のアンバランスが出来てきているから、この部分をもう少しかさ上げしないといけない、そしたらどうするか、という方法論の方がわかりやすいと思います。

(E委員)

そこを担うのは、産業部局とか、都市開発の部署で、生涯学習課ではないと思います。そういう手法で人口構成のバランスを直していこうとするのは、社会教育とはまた少し違う、ここでの仕事かという、私は少し疑問です。

(B委員)

市民カレッジをずっとやってきて、小規模多機能自治の案件がおりてきた。じゃあこれをどういった形でやっていくかということなので、そこを決めていかないといけない。

(E委員)

全体的に、人は絶対減るんです。去年生まれた人は増えないので、どうなるかというのが、これほどわかりやすい話はないという話で。

(C委員)

減るのはだれが見ても減るのだから、バランスをどういう風にとっていくか、そのために人口予測で、この足りない場所をこんな形でかさ上げしていこう、ということの予備調査としての予測ということだったら、私はやって意義があるかなと思いますけれども。難しい言葉が出てきたなあというのが、今日の第一印象です。

(F委員)

C委員の仰っていることへ向かうべき、後の人が続いていける、そこをつなげる、人を育てるとというのが私たちの仕事なので、人口がどうだ、経営がどうだというのは、相対として考えていかないといけないけれども、そういうことを考えられる人間を育てていきたいと思いますというのが、社会教育としての仕事だと思います。C委員が仰っていることはわかります。けれど、それを理解するべく、将来の子ども達なりに、こういう形で考えて、最後は小規模多機能自治という方向へ行けるんだよということを、理解しやすい人間を多く育てていくという方向なので、私たちがモデルケースを学んでということではなくて、私たちは学べる場を提供するのだと、私は理解しています。

(E委員)

今までやっていた「田辺を好きな人を作ろう」というのは、私が思っていたのは、自然減は仕方ないけれども、せめて社会減を止めたい。出て行っても、帰ってきてくれるようにしたい。その想いでやってきた。じゃあ、そういう人たちで、全体の数が減った中でも、自分たちの地域でちゃんとやっていける方法として小規模多機能自治という手法がある。それを理解する人間をどれだけ作るか、というのが土台作りであり、人づくりであるという理解をしています。

(G委員)

表現の話ではあるかと思いますが、お話を聞いて、向かうべき方向に小規模多機能自治というものがあるというのはわかったんですね。ただ、伝えたい言葉や内容を考えたときに、人口構造予測というよりも、もっとモヤっとさせたほうが逆に良いのかなと思って、「僕らの地域の未来予想図」みたいな感じでいいんじゃないかなと思うんですね。まず育てるべきが、人口を予測できる人間であるかもしれない、でも職員さんにとっては、その次の施策にどう関わっていくかというところかもしれない。多層を取り込むのであれば、もっとモヤっとさせた方が融通利くんじゃないかなと思います。

(E委員)

たしかに、C委員が仰られるように、まずはわかりやすくしないといけないというのはあります。

(G委員)

我が事にするというのは、すごい難しいなと思って、先日の講師の話も非常に良かったんですが、アンケートを見ると、50歳以下の参加者数はドカンと減っているし、そういうことに関わっていないと、我が事としてはなかなか思いにくいというところで、そこは先日のチラシもそうですが、工夫してやっていったらどうかと思うんですが、そういう意味では、人口構造予測が適当か不適当かは別として、色んな階層を取り込めるように、少し入り口を柔らかくするのが良いのかなと。

(C委員)

これは私なりの解釈ですが、小規模多機能という言葉は昔風に置き換えると、「むら社会」でしかないんですよ。核家族化じゃないんです。3世代同居しておかないと、小規模で、家族で機能を補っていくというのはできないと思っています。そうすると、昔の縮図としては、保育所の代わりをおじいちゃんおばあちゃんがやってくれていたわけですから、それが核家族化で広がっていったものですから、小規模で、多機能で、コンパクトで、という風な言葉が出てくるようになって、それを解消するには、小規模多機能自治なりをやっていって、結果帰結するところは、小規模多機能でコンパクトにして、それを広域連携で相互補完していくという方法しかない。難しい言葉を使いましたが、小規模多機能というのは僕は「むら社会」かなと思うんです。

(E委員)

そうですね。私は日本中のどの地域よりも、そこに対して、地域のみんが意識高い、というような状態を目指す方が良いのかなと思っていて。そのために、今までの2年間の講座の組み立て方を活かしていく。

(B委員)

講師の話をもっと真似するんじゃなくて、田辺なりの田辺モデルを作って、全国に発信出来たらという話まで、企画運営会議では出たんですけど、田辺モデルという形で、何か社会教育委員がアイデアを出して、一回やってみる。

(D委員)

人口の問題の未来予測という意味においては、まず市民が、自分たちのまちが将来どうなるかということ进行分析できる力を付ける、そういうための講座です。それは、いったん講師から教えてもらっても、我々は田辺に住んでいるわけですから、田辺の現状に即したものをオーダーする。例えば、広域合併した地域であるというところがあったり、そういう特徴は他とはまた違う。

(E委員)

この間の講師の事例報告を見ていても、やっぱり色んな形があるんだなと思うし、結局はその地域に人がないと絶対にできないし、じゃあその人をどう作るか、その地域特徴に応じたことで何ができるか。ただ、その前に広くみんなに知ってもらって、小規模多機能自治のマインドを高めてもらいたいなと思います。

(議長)

今、少し入り口の話をしただけで、これだけ色々な意見が出てくる。ということは、これは今年一年というようなレベルで済む話じゃないので、もっとみんなで突き詰めて、色々なケースを話し合いながら、その中でどうすることが社会教育委員としてすべきことなのか、出来ることなのかということを、皆さんと一緒に協議をしながら進めていきたいと考えておりますので、方向的には、西川委員からかみ砕いて説明して頂いたような形、F委員が仰った人づくり、人材育成ということの大切さなど、皆さんの色々な視点を踏まえて、田辺市に住む私たち独自の形、田辺といっても色々な地域があるので、各地域に合わせたような形のモデルを作れるような人材づくり、そういうところを目指していく必要があると感じております。企画運営会議の中でも検討させていただきますので、そういう形でご了承いただけたらと思います。

(2) 今後の予定について、事務局より説明を行った。質疑・意見等はなかった。

5. その他

(1) 次回定例会の日程について

次回定例会の日時は5月7日(木)もしくは11日(月)の日程で開催することとなった。

6. 閉会

副議長から閉会の挨拶を行った。